

平成 2 年度

## 児童生徒の実態に即した健康教育指導資料の開発に関する研究

～保有映像教材の活用とビデオ教材の開発～

川崎市総合教育センター 健康教育研究会議

## 児童生徒の実態に即した健康教育指導資料の 開発に関する研究

—保有映像教材の活用とビデオ教材の開発—

健康教育研究会議

森 美代<sup>1</sup> 高橋洋子<sup>2</sup> 對馬のり子<sup>3</sup> 倉田悦子<sup>5</sup>  
中川ふみ<sup>5</sup> (平成2年度)

### 要 約

急激な社会環境の変化は、児童・生徒の健康問題に多種多様の影を落とし、しかも顕在化しつつある。このような社会的状況の中では、広い視野からの健康教育が必要であり、「自分の健康は自分で守り育てる」という意識づけが重要になってくる。過去2年間の研究経過をもとに、当センターが保有している健康教育にかかわる映像教材を洗い出し、その活用を促す方法を立てるとともに、他領域をも考慮した健康教育の資料や教材の開発について研究を進めた。

1. 保有する映像を健康教育教材の視点から再検討し、活用しやすく内容についてのワンポイント（備考）をつけた一覧表を作成した。（資料1）
2. 開発教材の活用を図り、開発への要望や手直し、資料の収集等をも効果的にするため研究会を中心としたシステムを立案した。
3. 関係医療機関の協力を得て、映像資料の収集や取材から、心臓検診・尿検査等の教材を試作した。また、地区研究員の協力を得て指導に活用した。（資料2）
4. 新学習指導要領の内容を考慮し、他領域でも使用可能な健康教育の教材を開発した。

キーワード：保健指導，健康教育，VTR教材，教材開発，学級指導，学校保健

### 目 次

はじめに	IV 研究の内容	232
I 主題設定の理由	1. 保有教材活用促進システムについて	
II 研究のねらい	2. ビデオ教材の制作	
III 研究の方法	3. 試作ビデオでの検証授業	
1. 保有する映像教材の活用促進について	4. 収集映像での開発	
2. 映像教材の収集と開発	V まとめと今後の課題	236
3. 研究の構造	おわりに	
	参考文献・指導助言者・資料	236

<sup>1</sup>川崎市総合教育センター（研修指導主事）

<sup>2</sup>川崎市立西野川小学校（研修員）

<sup>3</sup>川崎市立百合丘小学校（研修員）

<sup>4</sup>川崎市立商業高等学校（研修員）

<sup>5</sup>川崎市立旭町小学校（研修員）

## はじめに

環境の変化とともに、児童生徒を取り巻く心身の健康問題は多種多様にわたり、しかも顕在化しつつある。その解決には難しさがああり、長時間を要するのが現状である。このような社会的状況の中で生涯にわたって「健康で安全な生活を営む能力」を育てていくためには、広い視野からの健康教育が必要であり、「自分の健康は自分で守り育てる」という意識づけが重要になってくる。

過去2年間の研究経過をもとに、当センターが保有している健康教育にかかわる映像教材を洗い出し、その活用を促す方策を立てるとともに、他領域をも考慮した健康教育の資料や教材の開発について研究を進めることにした。

### I 主題設定の理由

児童・生徒が自己の健康状態に目を向け、よりよい生活習慣を身につけていくことを目指した健康教育を行うには、健康の保持増進のための行為が「させられる」のではなく、児童・生徒自身が「自ら考え、行動を起こし、または、継続していく心の構えを育てる」ことにねらいを置いた指導が必要であると思われる。

それは、児童・生徒の健康にかかわる問題が、単に集団生活を送るための管理上の事故や安全指導・保健指導だけではなく、現代社会の縮図とも言える健康阻害の要因を抱えた児童・生徒が「心と体」に何らかの症状を持って登校し、学校生活を送っているということである。しかも生涯にわたって自己管理を必要とする「心身」に対し、生活の基礎を身につけるこの時期に、映像教材を使用した健康教育は、より重要であると考えられる。

映像による資料は、視覚に訴え、状況を客観的にとらえさせることにより自己の問題を主体的に発見、あるいは再確認し、日常生活の行動に、より具体的な知識や理解を与えられる。さらに自作教材では、児童・生徒に親近感を与えるだけでなく、使用する者が使い勝手に修正することや、使用目的によってスタイルを変えることも可能であるなど教材として効果的である。

「心と体の健康と安全」に開発の焦点を絞り、身近な生活から素材を求めてシナリオ、絵コンテビデオ教材の作成と、保有する映像教材の活用に力点を置いた研究とする。

### II 研究のねらい

児童・生徒の受ける情報量が著しく増加している中で、児童・生徒の実態に即した身近な題材を具体的に取り上げ、親しみと興味を持たせ、意識化、行動化への意欲づけとしたい。そこで映像教材の活用と開発にあたり、次の点を研究のねらいとした。

1. センターで保有する映像教材を、分析検討し学校教育の場で広く有効な活用を促すための方策を考察する。
2. 健康安全と心の健康について、自ら考え行動する姿勢を育てるための映像教材の開発を図る。
3. 学校医会をはじめ関係機関との提携を持ち映像の収集をするとともに、研究会の協力を得て授業における映像教材の活用例等の収集を図る。
4. ねらいの明確な自作映像教材を開発し、その効果的な活用法を探る。

### Ⅲ 研究の方法

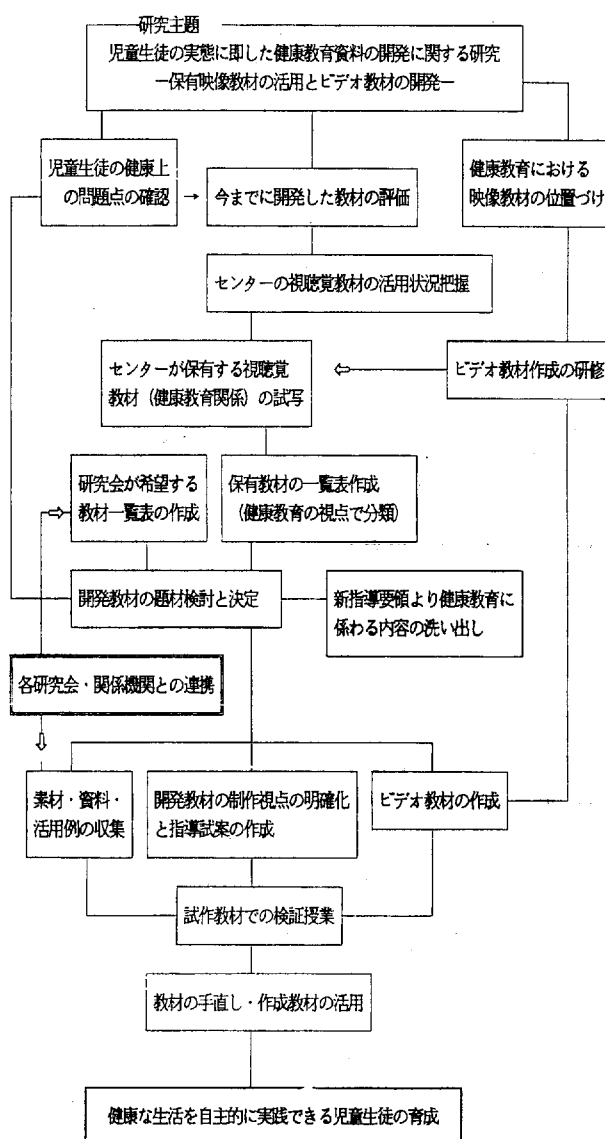
#### 1. 保有する映像教材の活用促進について

- (1) 保有する映像を健康教育教材の視点から再検討し、一覧表を作成する。
- (2) 健康教育の資料提供の立場にある養護教諭に対し、フィルムのPRを行い、活用のシステムについても検討する。

#### 2. 映像教材の収集と開発

- (1) 前年度研究開発した教材の活用化を図り、その評価を研究の参考とする。
- (2) 「自ら自己の健康問題に気づき解決を図ろうとする」ねらいを実現するには、どのような教材がよいか検討し、教材作成にあたる。
- (3) 新学習指導要領の内容を考慮し、保健指導をはじめ他領域や関連教科の教材としても活用できるような素材の収集を図る。
- (4) 小・中の養護研究会や健康教育部会、保健安全研究会との連携を図ると共に、体育・保健体育研究会議の協力をえて、開発や活用例等の収集に当たる。
- (5) 校医会や関係機関との連携を図り、健康診断や管理に関する事項での教材や資料（統計的データ）の作成を行う。
- (6) 身近な題材こそが、受け手に親しみを与え興味を引きやすい特性があるので、児童生徒の実態に合った映像教材が各学校でも作れるようシナリオや絵コンテのみの作成も考える。

研究の構造図



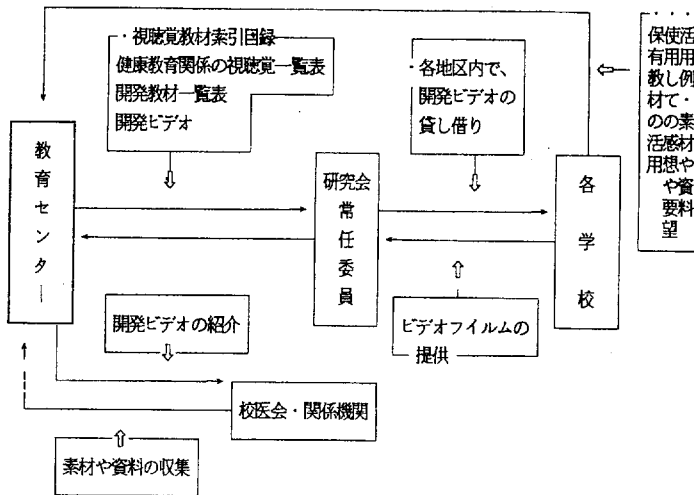
#### 3. 研究の構造

前年度までの研究成果のもとに、右図のように研究の構造を立てた。

## Ⅳ 研究の内容

### 1. 保有教材活用促進システムについて

前年度までに開発した映像教材及び、当センターが保有する健康教育関係の視聴覚教材の活用促進を図るために、次のようなシステムが考えられる。これらはまた、関係機関や学校現場からの資料の収集、開発教材への要望や手直しの情報を入手することが容易になり、よりよい教材の開発につながるものと思われる。このような考えから、センターの保有教材を使用した「性教育」（資料



3)「近視の予防」, 63年度に開発した教材「手あらい (資料4), ??菌??」を使用した学級指導等の資料を収集できた。

また、校医会へ働きかけ、心臓病判定委員会の取材や関係医療機関から、「ぼくの心臓」の一部や「健康の主役—ミクロメイト」の一部等、貴重な資料映像や模型パネルを入手することができた。

### 2. ビデオ教材の制作

ビデオの制作にあたり、作成教材の選定を次のように考えた。

#### (1) 作成教材選定の視点

- ・研究主題にそって児童生徒の実態からみて必要性の高いもの。
- ・映像を用いることの効果が高いと思われるもの。
- ・児童生徒の実態がすぐに教材として指導に反映できるもの。
- ・既成の適切な教材が得られにくいもの。
- ・関係機関から収集した資料をもとに開発可能なもの。

#### (2) 制作ビデオの題材と基本的な考え

- ・学校で行う健康教育の範ちゅうを、健康に必要な基本的生活習慣や自己の健康状態を理解させるものとし、生活リズム、食生活、環境、安全、からだ、こころの分野にわけ、その中から上記の視点にたった題材を検討する。
- ・他領域の教科で使用可能な教材については、素材や資料となるよう考慮する。
- ・それぞれの題材の開発視点は、表1のようであるが、ビデオ制作にあたっての基本的な考えを、知識として提供するものと、児童生徒が「自ら考え、問題を把握し、実践化」につなげることができるような映像を提示できるようにする。
- ・保有教材を使用した授業展開のビデオは、教師の指導の参考例にする。

### (3) 製作ビデオ・パソコンソフト一覧

映像教材は、「その内容によって、資料的教材・代行的教材・直接教材などが考えられる」とされている。教材選定の視点や制作ビデオの基本的な考えに基づき、映像教材の特性と健康教育での位置づけをも考慮し、次表のような教材を開発した。

### 3. 試作ビデオでの検証授業

「自ら自己の健康問題に気づき、解決させる」ことをねらいとした時、児童・生徒の健康生活の

表1 製作ビデオ・パソコンソフト一覧

題目・項目	対象・時間	内 容	開発の視点	活用の方法
夏 休 み	小学生 7分	アキラ君の夏休みの一日を起床から就寝まで追う。	食生活、生活時間に目を向けさせる	夏休み前後
みんな知ってる?	小学生 4分	日常飲んだり食べたりしている物の温度を計り、胃に与える影響を考えさせる。	食生活に目を向けさせる。	夏休み前
楽しいプールかはじまるよ	小学生 7分	プールに入るまでの準備をプール代、体のリフトから説明する。	水泳の安全に目を向けさせる。	水泳指導前
身体測定 (絵コンテ)	小学生 5分	正しい身体測定のポイントをひとつひとつ説明する。	正確な測定の方法を理解させる。	計測前の事前指導
つめ (写真・絵も含み)	小学生 中学生 5分	いろいろな動物の爪、爪の中にある細菌、爪での健康チェック	安全・役目・衛生面に目を向けさせ再認識させる。	給食、水泳体育、保健理科の資料
耳、気にしていますか	中学生 9分15秒	ヘッドホンで音楽を聴いている人たちの様子、聞こえについての耳鼻科医の説明を紹介	ヘッドホン聴取に目を向けさせる。	3月3日の耳の日前後
心ぞうってなあに?	小学1年生 小学4年生 4分	心臓のはたらき、位置、大きさと検査の大切さ	心臓についての簡単な知識を与え検査の大切さを理解	心臓検診前の事前指導
心ぞう検診の受け方	小学1年生 小学4年生 5分	検診の流れを順を追って説明 医師の協力を紹介	検診に対する不安感を取り除き、受け方を理解させる	心臓検診前の事前指導
私たちの体ー心ぞうー	小学6年生 5分	全身の血液を入れたり出したりポンプのように動く心臓の動きやつくりを説明	心臓の動きにを理解させる	理科の資料
心臓検診	中学生 8分	心臓の動きとよく見られる病気や異常、検査の大切さ、医師の協力を紹介	検査の大切さと自己の健康管理の必要性、関係者の協力を理解させる。	心臓検診前の事前指導
おしっこの上手なとり方	小学生 8分	とり方の手順や提出時の注意を説明	正しいとり方を理解させる。	検尿前の事前指導
尿の検査	小学生 中学生 5分 教師	予防医学協会での尿検査の流れを紹介	検査の方法や流れがわかり検査の大切さを理解する。	検尿前の事前指導
パソコンソフト	昔と今の発育の差は?	小学6年生 明治43年～昭和62年度までの4割の全国平均年度別変化をグラフ化	発育の状態を理解することで、自己の成長や食事又社会の背景まで理解させる。	身体計測の前後、社会科の資料
	疾病傾向	小学高学年 川崎市平成2年度の健康診断結果	検査の重要性	定期健康診断の前後
	アカート(耳)	中学生 ヘッドホンに関する〇〇中学の生活調査	耳を大切に	検診前後指導

問題点として、生活リズムと食生活のことが第一義に考えられる。そこで、夏の健康生活について、導入の段階で「学習への意欲づけをし、問題に気づかせ、考え体験させる」ことを視点とした「みんな知ってる?、夏休み」を一連の題材と考えビデオ教材を試作し、次頁指導案により検証授業を行った。

(1) 「みんな知ってる?」を使用しての授業

(児童の反応)

ビデオは、何についての学習だろうと興味深く見ていた。

興味関心はビデオにより深く動機づけられた。しかし、温度を計ったのは、水道の水だけだったので他のものも実際に計ってみたいという気持ちが強かったようだ。その気持ちが、温度を予想し発表したにもかかわらず、結果を聞いても反応に高まりがなかった。

第1回目の授業

第5学年1組 学級活動指導案

指導者 中川 ふみ

1. 日時 平成27年7月16日(月) 4校時
2. 題材 夏の健康を守ろう(食べ物編)
3. ねらい 冷たい物の温度を知り、それが胃にどのような影響を与えているかを考え、冷たい物をとりすぎに注意できるようにする。
4. 展開

	活動内容	指導上の留意点	資料
導入	1. VTRを見る。(4'30") 2. 何の学習かを考え発表する。	・何の学習かを言わないでVTRをみせることによって、関心を高めさせる ・理科、家庭科、健康などいろいろ出てくると思うがきょうは、特に健康と物の温度の関係について学習することを知らせる。	・VTR 「みんな知ってる？」 *写真1,2.
展開	3. 水道の水の温度を予想し、実際に計る。 4. いろいろなものの温度を予想し、発表する。 ・ジュース・アイスクリーム ・氷水 ・かき氷 等 5. たべすぎや飲みすぎをすくからだにどんな影響を与えるかを考える。 6. 胃に与える影響を知る。	・プールの水の温度などから考え合わせる。 ・いつも飲んでいる水の温度を計らせることにより、家でよく飲んだり食べたりしている物に関心を持たせる。 ・いろいろな温度を予想させると共に、何が一番冷たいかを考えさせる。 ・経験上や、冷たいものの温度などから考えさせる。	・水道の水 (汲んできたばかりの水) ・温度計 ・コップ ・テープ(温度を計た子どもの声)
終末	7. 今日の学習についての思ったことを発表する。	・ポスターで胃の状態(写真)を知らせ、体に与える影響を目でとらえさせる。	・ポスター(通常の胃の状態と冷たい物をとった時の胃の状態)

ビデオ画面の一部

写真1

氷水の温度を計っているところ



写真2

アイスクリームの温度を計っているところ



2回目の授業の変更部分

展開4

・いろいろな物の温度を予想し発表をする。

・いろいろな物の温度を予想し、実際にグループごとに計り発表する。

そこで、第2回目の授業を他のクラスで行い、授業展開4の部分を上のように変えた。実際に温度を計るという行動を通して、自分たちが普段からだの中にとり入れている食物の温度に気づき感嘆の声があがった。そして、その後の授業展開が活発に行われた。

次頁アンケート結果からもわかるように、冷たいものとりすぎと胃との関係が強く印象づけられていることがよくわかる。

これは、ビデオの内容がきっかけになり、実際に食物の温度を計るという体験を通したからではないか。もし、ビデオの画面に食物の温度を計った結果が入っていたならば「あーそうなのか」ぐらいでの印象しかなかったのではないかと考えられる。

2回の授業を通してみた結果、VTRの内容に体との結び付きがあれば、さらに最初の段階で「温度を計る意味」が深まるのではないかと考え、写真3の画面を入れて改良を試みた。

写真3

体温を計っているところ



(授業後のアンケートから)

①冷たい飲み物・食べ物には、どんな働きがあるでしょうか。

良い点

- ・体を冷やしてくれる。
- ・夏の暑い時は、体温を下げられる。

悪い点

- ・冷たすぎるものだと、胃が驚いてしまうので体に良くない。
- ・胃が縮む。

②なぜ、冷たいものをとりすぎではいけないのでしょうか。

- ・胃がぐちゃぐちゃになって、もとの大きさより小さくなり、動きがわるくなってしまう。
- ・おなか痛くなってしまう。

③今日の授業でどんなことを感じましたか。

- ・いつも暑いからといって、冷たいものをガバガバ飲んだりたくさん食べたりしてしまうのですが、それが胃に良くないということが良くわかりました。
- ・ふだん何気なくジュースを飲んでたが、飲み過ぎないように気をつけるなければいけないと思った。
- ・今まで夏休み前に先生から、「冷たいものを飲み過ぎないように、休み中に病気をしないように」と注意されていたが、今日のテレビをみて勉強したのでその理由がはっきりわかって良かった。
- ・こんなに胃を縮ましているとは思っていなかった。それに夏に冷たい飲み物や食べ物を取りすぎないようにと言われるわけがわかった。とりすぎないように気をつけ休みを過ごそうと思う。

(2) 「夏休み」を使用した授業

食生活に続き下記指導案にて、生活リズムについての授業を展開した。

(児童の反応)

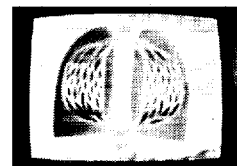
ビデオは、それぞれ自分の生活と合わせながら見る事ができたようだ。見ている途中でも、「あれはだらしがない」「ご飯をあんなに残している」「寝るのが自分と同じだ」など、身近なものとしてとらえている。しかし、ビデオの内容を健康との関連でとらえることがあまりできなかった。それは、映像から受けるインパクトが、だらしのなさを強調しすぎたためか、自分自身と比較し、妙な安心感を覚えたようだ。その点

をカバーするために、統編としてビデオに出てくる子どもの食生活を、健康面との兼ね合いで分析した映像を作り、展開の中でそれを使用した授業をすると効果的ではなかったかと思う。

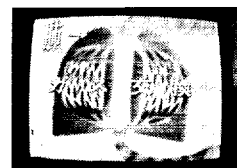
#### 4. 収集映像での開発

関係機関で作成した映像の一部を利用し、教科内容を考慮して次のような映像を作成した。

映像資料



テロップを入れてわかりやすく



日時・指導者は省略(対象学年5年)

1. 題材 夏の健康を守ろう(規則正しい生活)
2. ねらい 不規則になりがちな夏休みの生活を見直し、不規則な生活が健康に与える影響を考えることができる。
3. 展開

	活動内容	指導上の留意点	資料
導入	1.VTRを見る。(6'30")	・自分の生活と考え合わせて見るようにさせる。	・VTR 「夏休み」
展開	2.問題点を考え発表する。 ・生活時間 ・食生活 3.自分の夏休みの一日を思い出してプリントに書く。 ・生活時間 ・食生活 ・VTRの子どもと自分の生活とを比べての感想	・生活時間や食生活に問題点があるが、それにとらわれず自由に考えを述べさせる。 ・プリントにあらためて書くことにより、自分の生活の見直しをさせ問題点をさぐる。	
終末	4.自分の生活をふりかえって感想を発表する。	・これからの自分の生活態度を考えさせる。	

(授業後の感想から)

- ・順番に三食食べています。犬の散歩があるからきちんと早くおきています。
- ・あきら君と同じように夜が遅いので、朝も遅く起きてしまいました。朝起きた時は、ボーッとしているときが多かった。これからもう少し時間にけじめをつけたい。
- ・あきら君と似ている生活だった。朝と昼御飯が一緒になることがあり、途中でおなかすき間食をすることが多かった。これからきちんと御飯を食べたいと思う。
- ・ビデオの人はだらしがないと思う。それに比べれば自分の方が生活がきちんとしていたと思う。けれど、寝るのが遅くなっていたのでこれからは、もう少し早く寝なくてはいいなと思いました。食生活は、三食きちんと食べていたから良かったと思います。



## V まとめと今後の課題

前年度までの研究を受けて、保有教材の活用促進の方策と、他領域をも考慮した映像教材の開発、また資料となる素材の収集を試みた。しかし、身近な生活から題材を求めることが予想以上に難しかった。健康生活に関わる諸問題は、児童・生徒たちにとっては何げなく過ぎてしまっていることであるから、実生活での問題場面をとらえて「考えさせ、行動への変容」を迫るためには、映像教材が「子どもの心に揺さぶりをかける」ことができなければならない。そのためには、数多くの素材となる映像が必要である。また、健康教育は、指導のタイミングが重要なポイントにもなるので、児童・生徒の様々な実態を捉えた映像や児童・生徒の発想を生かした教材、写真や絵図等も収集して置くことで、次の開発なり各学校での利用に役立てられると思われる。

今回は作成した教材の一部しか検証授業をすることができなかったが、残された作品についても「映像と言葉」を再検討・再制作しながら試作ビデオの活用を促し、指導後の追跡調査など実施して効果的な教材に改良していく必要がある。

研究の一つのねらいであった保有教材の活用促進システムを有効に利用し、研究会常任委員の協力を得ながら、映像活用の授業展開や指導案、開発した教材の手直し等情報を入手しなければならないと考える。

## おわりに

研究を進めるにあたり、ご指導・ご助言くださいました多くの諸先生方、また映像提供をいただきました岩波映画会社・神奈川県予防医学協会と医師会の諸先生方に、厚くお礼申し上げます。

### ・参考文献

- 青木考頼 『健康・安全・学習』第一法規 1988年  
宇佐美昇三 『学校のためのビデオブック』ぎょうせい 1987年  
奥田真丈 他『小学校学習指導要領の解説と展開（各関連教科）』教育出版 1989年  
北村季軒 『生活についての保健指導』東山書房 1988年  
日本学校保健会監修「漫画ヘルシー文庫」大塚製薬 1989年  
野田一郎 『教師のためのビデオ制作入門』日本放送教育協会 1984年  
波多野完治他『映像と教育』日本放送教育協会 1985年  
広島県保健指導資料作成グループ『イラスト・シナリオ集』東山書房 1987年  
市立中学校教育研究養護部会「中学校保健指導資料」市教育委員会 1989年

### ・指導助言者

- 東京学芸大学教授（専門員） 波多野義郎 川崎市総合教育センター第一研究室長 原 勤  
川崎市立西高津中学校教頭 名取 栄司

資料 1. 保健科女子学習関係の学習記録(保健科教科書一覽 (一部))

教材の種別・学年	題名	内容の要約	備考
D10000880 18分 中学校 成人	生命の誕生 いのちのそらう	この瞬間、人間に初めて生命の成長の過程を体験したことになる。受精から着床までの過程を詳しく説明している。	生命の誕生を題材に扱った。
D58000750 18分 小学校 同 4年	おとなへのわたしの成長	小学校5年生の子どもの成長をテーマにした。心身の成長や生活習慣の重要性について、具体的な事例を挙げて説明している。	内容が古い
D56000910 14分 小学校 同 4年	からだの発達 女の子の生理	からだの発達と関心について、女の子の生理の仕組みや周期について詳しく説明している。	内容が古い
D6000460 30分 中学校 成人	親子で考える 性と性	性に関する正しい知識の重要性について、親子で話し合うことの大切さを説いている。	指導書で利用すること
D6100780 56分 中学校 成人	子どもたちへ	性に関する正しい知識の重要性について、子どもたちに伝えるための方法を説いている。	担任と連携して活用すること
D8200650 28分 成人	性の知識	性に関する正しい知識の重要性について、具体的な事例を挙げて説明している。	よい内容を別に活用すること
D8200780 105分 中学校 成人	若人よ	性に関する正しい知識の重要性について、若人へのメッセージを込めて説明している。	命の尊厳を考慮して活用すること
F6800550 17分 小学校 成人	赤ちゃんが生まれる話 - 笑顔をのびくみ-	子どもたちの成長について、赤ちゃんの誕生から成長までの過程を詳しく説明している。	子どもの成長に関心のある作品
F6300550 18分 小学校	女の子 - 二つ子産んで育てよう-	女の子の成長について、二つ子産んで育てようというテーマで説明している。	授業上題材として活用すること
F8100380 20分 中学校 成人	十代と妊娠	十代の妊娠について、健康と安全を考慮して説明している。	指導書などで活用すること
F6200320 15分 成人	その日、晴れやかに	性に関する正しい知識の重要性について、晴れやかな気持ちで説明している。	同上
F6200330 15分 小学校 成人	ようこそ、お友達 - レディたち-	女の子の成長について、お友達としてサポートする大切さを説いている。	画面がきれいなので活用すること

資料 3. 保育教材の活用例

- 学級活動指導案 (指導日・指導者は省略-対象 第5学年)
- 題材 心と体の成長
  - ねらい 第二次性徴の特徴を知り、自分の心と体の成長をきちんと受けとめることができるようにする。

活動内容	指導上の留意点	資料
導入 1.今、小さい頃と比べて心や体になどどのような変化が起きているかを考え発表する。	・表面的に見える体の変化に着目させる。(身長、体重の変化など) ・友達や家族に対する態度や心の変化などに気づかせる(自覚の必要性、自己主張) ・VTRの見方を心と体の変化を中心にさせる。 ・人によってそれぞれ成長の時期が違い、早くても遅くても心配のないことを知らせる。 ・大人に近づくということは人間としても大きくなるということであり、すばらしいことだということを認識とらせる。	VTR 「女の子の男の子」
展開 2.VTRを見て、心や体の変化を知る。		
3.今日学習したことについて、わかったことを書く。	・これまで一人で成長してきたものではなく、親やまわりの人たちのおかげであるということに気づかせ、感謝の気持ちをもたせる。	作業用紙
終末 4.親に手紙を書く。		手紙

児童のこぼれ

- ・女性も男性も同じ人間なのに、体のしくみやつくりが違うことがわかりました。
- ・男子と女子の体のつくりがよくわかって、男子はポックリになったり、女子は生理になったりすることがわかりました。男子と女子のからだについてすく勉強になりました。
- ・脳が男性ホルモンをだせるといって、みんな育っていくことがわかった。体のいろいろな部分に名前がついていることがわかった。みんな、その人その人になった時に声変わりや男性ホルモンが出されていることがわかった。

(子どもから親への手紙)

- ・まよ、女の子の男の子というテレビを見て、いろいろなどがわかりました。お母さんが教えてくれたおかげでテレビをみて、もっとわしくわかりました。お母さんありがとう。

(親から子どもへ手紙)

- ・これからは大人になっていくために体が変わっていくと思います。自分で考え込まないで話し合い、心配やはずかしさをなくして元気に毎日が過ごせるようにしましょう。

資料 2. 試作教材を使用したの指導例

- 学級活動指導案 (指導日・指導者は省略-対象 第1学年)
- 題材 心臓について簡単な知識を知り、心臓が大切な働きをしていることを理解させる。  
・検診に対する恐怖感をなくし、スムーズに検診が受けられるように検診の流れをつかませる。

3. 展開

活動内容	指導上の留意点	資料
導入 1.心臓について知っていることを自由に発言させる。 ・場所・役目・音など	視点をさぼらないで発言させ心臓について関心をもたせる。	
展開 2.VTRをみる。(3'30") 3.心臓の大きさを手で作ってみたり、友達どうしで心臓の音を聞き合ったりする。 4.心臓検診の目的について知る。 5.VTRをみる。(2'50")	・心臓について簡単な知識を知らせ、生命維持に大切なところだと知らせる。 ・VTRをみせながら検診に対する不安感を取り除かせるようにする。 ・驚かない・怖くない・リラックスして受けよう	VTR 「心ぞうってなあに」
終末 6.昨年の心電図の紙を見て心臓の動きを知る。 7.いつも元気で過ごすための方法を考える。 ・好き嫌いしない・外で元気に遊ぶ・ぐっすり眠る・毎日排便をする。	・多くの人が健康を守っていることを知らせ、自分から自分で、健康に気を配ることは何かを考えさせる。	VTR 「心ぞうけんしんの受け方」 昨年の心電図の紙

児童の反応

- ・VTRを見ながら、自分で置りこぎを作ったり、胸の位置に手をのびたりしていた。
- ・友達どうし心音を聞き合う姿が自然に見られた。
- ・検診の話をした時、怖くない?痛くない?と聞いてくる子どもが多かったが、VTRを見てから不安感がなくなってきたようだった。
- ・検査当日は、あまり指示をしなくてもスムーズに検診を受けることができた。

担任の意見

- ・担任自身が初めてのことであり、事前に流れがわかり、児童への指示に役立ちとても良かった。
- ・二本のVTRがあっというまに終わってしまった感じがする。テンポをゆっくりにしよう少し長くてもよいのではないかと。
- ・判定金の様子など普段目にする機会はない場面はとても参考になった。

資料 4. 開発教材の活用例

- 学級活動指導案 (指導日・指導者は省略-対象 第1学年)
- 主題名 きれいに手を洗おう
  - 主題設定の理由  
運動会の練習が続き子どもが時間におわれるために、日常習慣づけてきた手洗いが上手にできなくなってきた。用便後、給食前の手洗いがおろそかになっていたり、さっと水をぬらすだけの子どもが目につくようになってきた。入浴時に合わせて、手洗いの指導をすることによって衛生に留意できるような子を、育てたいと考案本主題を設定した。

- 清潔な手洗いの仕方(ヨウ薬液)を使って指導させ、四つのポイントに絞って指導することによって、習慣化をはかりたい。
- ねらい  
きれいに手を洗うことの必要性を理解させるとともに、清潔な手洗いの方法を知らせ、その習慣化をはかる。
- 学習展開

指導の流れ	学習活動	指導上の留意点	資料
事前		運動会練習後や給食前用便後手洗いを指導しておく	
本時	つかむ 1.日常手洗いを十分にしているかを話し合う。 ・用便後・給食前	主題が、自分たち一人ひとりの問題であることをつかませる。	
	つまつめる 2.手を洗わないと、どうなるかを話し合う。 3.手にヤマトの液、ヨウ薬液をつけて洗う実験をする。 ・洗わない・水で洗う・石けんで洗う 4.洗い方によって、その違いを比べる。	洗い方によって違いははっきりとわかる	ヨウ薬液 ヤマトのり 石けん
	意欲づける 5.きれいに手を洗う方法を伝える。 ・石けんをつける。手のおもちゃを洗う。ゆび先を洗う	手洗いの手順を提示し定着化をはかる。	VTR 手洗い 5分
	事後	1週間、20分休憩後給食前、用便後きれいな手洗いを指導し習慣化をはかる。	

評価 きれいに手を洗う方法がわかり、四つのポイントをおさえて洗えるようになった。